

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	とーときっずるーむ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 17日		～ 令和 7年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 24日		～ 令和 7年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	固定化されていないバリエーション豊富な活動をしていること また静と動、不意打ちなどによる脳への刺激で脳活性化の活動を行っていること	過去の記録の見直しと、今必要なことという観点での情報収集を行い、新しい活動を考案している。また五感をバランスよく刺激できるよう考慮している。	データベースの構築による情報の共有化と療育スタッフのスキル向上をしていく
2	送迎時に、療育で児童と関わったスタッフが直接、保護者さまにその日の児童の様子を報告及び保護者さまからの相談を受けられること さらに写真付きサービス提供記録により保護者さまがその日の児童の様子を視覚的に理解し安心したり、子どもとの振り返りに利用しコミュニケーションの強化にもなっていること	療育で児童と関わったスタッフが送迎することで、最近の児童の家庭や学校での様子を情報交換している	スタッフの児童観察力の強化や会話力の向上のための研修を行っている
3	活動全体に参加できない児童に対して、活動内容を細分化して部分的にでも参加できるようにしていること また活動に参加できない児童が好きなことに取り組める場所があること	切り換えができるような声掛けなどのアプローチをしている。 また、大小の指導訓練室や個室等を状況に合わせて使い分けたり、児童の配置を考慮したりしている	スタッフが児童についての最新情報を把握することで、活動に参加しない理由を推察できるようになり、切り替えのための適切な声掛けをしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内の一部設備の経年変化等による劣化や汚れ	経年劣化及び療育活動等による劣化や汚れ	専門業者による清掃・消毒を依頼、劣化設備の交換
2	療育プログラムのデータベース化が未完成のため、どのスタッフでも日々の療育を効率的に立案できるに至っていない	日々、多種多様な活動が考案・実施されているため	使い勝手の良いデータベースを早期に構築する(DB構築プロジェクトとして全体で取り組む)
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 とーとっきずーむ

公表日 令和7年3月3日  
利用児童数 令和7年2月17日

回収数 8/8

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7			1		児童発達支援センターの面積基準を十分に上回る広さであり、児童の情緒や活動に合わせた環境設定をしている
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8				・おもちゃ等は整理整頓されており、活動をする際に集中して取り組めるようになっている ・本人だけでは活動に参加するのが難しい時は、スタッフが寄り添ってくれ良い経験を積んでいる ・子供の偏食がひどく食べられるものが少ないことで、おやつやリンゴジュースの飲み食べ慣れた物を持参してもいいと言ってくれた	
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8				・本人だけでは活動に参加するのが難しい時は、スタッフが寄り添ってくれ良い経験を積んでいる ・子供の偏食がひどく食べられるものが少ないことで、おやつやリンゴジュースの飲み食べ慣れた物を持参してもいいと言ってくれた	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8				・きらきらタイム・運動タイムでは指示に沿った行動をすること、友達と関わることを学んでいる	
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8				・家族支援について、特に助けられている。家族の状況について、経過も気にしてくれ、相談機関を紹介してくれた。また本人支援についても、場所や人に慣れ、安心して過ごすことができている	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8				・1日の利用の中でいろんな活動を行っているの、本人にとってはとても充実し良い刺激になっている	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4			4		交流について賛否両論があったため、特定の施設との交流の機会は設けていないが、外部イベントを含む外出として、障害の有無関係ない子どもたちと交流できる機会を設けている
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1		4	・去年参加した保護者会は、先輩ママたちからいろいろなお話が聞けてとても参考になりよかった	必要に応じて保護者との面談や電話相談で支援を行っている。また保護者会や家族参加イベントも開催している。今後は、グループや個別のニーズに応じたペアレントトレーニング等も企画していく
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8				・子どもの送迎時にスタッフにお話を聞いてもらっている（家での様子について）	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4		1	3	・まだ交流の機会なし、兄弟利用なし ・保護者会ではいろいろなお話が聞けて、とても参考になった	アンケート結果をもとに決定した開催頻度や時間、内容などで開催していたが、昨年は1回しか開催できなかったため、今年はまた通常通り開催する予定である。また家族参加型イベントも同日開催している。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8				・利用回数について柔軟に迅速に対応してくれとても助かった	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6			2	・サービス提供記録でその日の活動を細かく伝えてくれ、安心感を感じ、本人の成長も感じられている。見るのが楽しみ	オンラインにより毎日、活動内容を発信している。翌月の利用申込時に、スケジュールを公開し、イベントチラシを写真・イラスト等を使用して案内している。容易に連絡を取り合える手段として電話以外にオンラインシステムも利用できる。自己評価等の結果はHPで公表し、その旨を連絡している
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8						

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			1	・まだ経験していない	昨年も既定の半年に1回以上、様々な災害等に対する避難訓練や防災に関する学習を行った。引き続き、半年に1回以上の訓練によりいざというときに備えていく
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		2	・事故等が発生していないのでわからない	発熱等の状態の変化を確認した際は速やかに連絡をしている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	7	1			・笑顔が見られ、楽しく過ごしていることが伝わってくる	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	5	2		1	・まだ利用日数が少ないため（これから） ・泣いてしまうことがあるが、アプリの（サービス提供記録の）写真を見せるとニヤッと笑っている	
	29	事業所の支援に満足していますか。	8				・とても満足している	

【その他のご意見・ご要望等】

- ・本人に併せて活動や支援をしっかりしてくれたり、家庭での困ったことにも耳を傾けてくれ相談にのってくれるので、とてもありがたく頼りにしている
- ・本人も通所をとても楽しみにしていて安心している
- ・とーとに行く日はお迎えに来る時点でわかるのだと思うが、スッと靴を履き、職員と手をつないで出かけていく。帰りにニコニコ帰ってくるので安心している
- ・毎回、送られる活動時の写真も、見せながら「こんなんしたん？」と聞くと、「うん！」とニコニコ答えてくれたり、携帯を手に取り、ニコニコ見ているので、言葉が話せないわが子とのコミュニケーションの時間になっていて助かっている
- ・昨年の夏から利用を始め、慣れるまでは時間がかかるかなと思っていたが、思っていたよりも早く打ち解けて、子供の成長を感じた。アプリの写真でも楽しそうに活動に参加している姿にとても親として安心している。これからもとーときっずでたくさんのお友達、スタッフの方々というんな経験をして成長して欲しいと思っている
- ・毎回、活動内容を詳しく記載していただいている。写真もついていて、活動風景がわかるどころもよい点だと思う

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	とーときつずーむ		公表日		令和 7 年 3 月 3 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		児童の情緒や活動に合わせた環境設定をしている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		児童の情緒や活動に合わせた環境設定をしている	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		評価表のほか、日々、送迎時など保護者とのコミュニケーションも大切に、ニーズなどを把握するよう努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓		
適切な支援の提供	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		令和7年3月に公表	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	✓			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		個々の成長に応じて支援内容をより適切に更新している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		イベントを含めた活動の案を出し合い決定している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		日々、多種多様な活動を行い、1日の中でも様々な個人活動・集団活動を行っている。特に、全身を動かす運動から体の細部を動かす運動等に併せて思考やひらめきが必要なことを取り入れたりしたコンビネーション運動は自社独自のプログラムである。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		個々の成長に応じて支援内容をより適切に更新している	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓			
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓				

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		園への送迎時に該当児童の状態などの様子を確認し、必要に応じて当事業所での様子を情報共有している。園への送迎がない児童については、保護者を通じて情報交換を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	✓			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	✓		交流について賛否両論があったため、特定の施設との交流の機会は設けていないが、外部イベントを含む外出として、障害の有無関係ない子どもたちと交流できる機会を設けている	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		送迎時やオンライン連絡帳を活用したり、必要に応じて面談や電話で伝達・相談している	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		必要に応じて保護者との面談や電話相談で支援を行っている。また保護者会や家族参加イベントも開催している。	今後は、グループや個別のニーズに応じたペアレントトレーニング等も企画していく	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	✓			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		アンケート結果をもとに決定した開催頻度や時間、内容などで開催している。また家族参加型イベントも同日開催している。	昨年は1回しか開催できなかったため、今年はまた通常通り開催する予定である。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	✓		オンラインにより毎日、活動内容を発信している。翌月の利用申込時に、スケジュールを公開し、イベントチラシを写真・イラスト等を使用して案内している。容易に連絡を取り合える手段として電話以外にオンラインシステムも利用できる。自己評価等の結果はHPで公表し、その旨を連絡している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		絵カードによる情報伝達や、ジェスチャーや選択肢によるコミュニケーションを行っている	個々のニーズに合ったツールを増やしていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		外部イベントを含む外出として、近隣地域との交流を行っている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		職員は入社時及び適宜、各種マニュアルの確認を行っている。保護者には契約時に説明している。必要に応じて、再度周知・説明していく。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		既定の半年に1回以上、様々な災害等に対する避難訓練や防災に関する学習を行い、いざという時に備えている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	✓			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		✓	食物アレルギーを事前に確認・把握しているが、食物を提供していないため、非該当	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		保護者には契約時に説明している。必要に応じて、再度周知・説明していく。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		ヒヤリハットの程度に関わらず気になることがあった際には、スタッフ全員で情報共有をしたり、記録を残したりして、以降の再発防止につなげている	ヒヤリハットの程度に関わらず、記録を徹底していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		外部研修を受講し、全スタッフに勉強会を行っている。また毎月、チェックリストを用いた確認もしている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	✓			